

目標	Ⅸ	文化芸術の振興		
施策	27	文化芸術活動の充実		
主な取組		○ 文化芸術活動への参加の促進		
		○ 子供たちの文化芸術活動の充実		
		○ 障害者の文化芸術活動の支援		
		○ 県立美術館などにおける活動の充実		
		○ オリンピック・パラリンピックなどの開催を契機とした文化芸術活動の振興		
担当課		特別支援教育課・義務教育指導課・文化資源課		
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要	事業の自己評価	担当課
埼玉県芸術文化祭の開催	12,641	<p>○地域文化事業 市町村や文化団体との共催により、地域に密着した伝統芸能、音楽コンサート、美術展覧会など県内各地で開催 ・令和2年8月～令和2年12月に実施（4市町、10団体参加） ※当初51団体を予定 ・参加者数：14事業、474,556人</p> <p>○第70回埼玉県美術展覧会 令和4年度以降に延期（県民の創作した美術作品を近代美術館で展示・公開（日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の6部門））</p> <p>○芸術文化ふれあい事業 文化団体が学校や公民館などに出向いて、公演や実技指導を行う事業 ・音楽、美術、舞踊、演劇・演芸、文芸、生活文化、国際交流の7分野、49メニュー ・参加者数：30事業 1,855人 ※当初60事業を予定</p> <p>○文化団体・イベントマッチング事業 発表の機会を求める文化団体と、県内で開催されるイベントの主催者をマッチングする事業。新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるイベント中止等のため、モデルケースのみ実施。 ※当初30団体を予定 ・参加者数 2団体 78人</p> <p>○協賛事業 埼玉県芸術文化祭の趣旨に賛同して行われる各種芸術文化事業を県芸術文化祭の協賛事業として承認 ・期間：令和2年4月～令和2年12月 ・承認件数：52事業 ・参加者数：329,397人</p>	<p>○地域文化事業 当初は事業承認数が1事業増加し、事業内容も、伝統芸能、市民文化祭、展覧会など多彩な内容を計画していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、37事業が令和2年度の実施を見送った。実施した14事業では、参加した地域住民から「参加できて喜ばしい」との声が寄せられている。</p> <p>○芸術文化ふれあい事業 メニュー数が1増加し、事業数は約10事業の増加を見込んでいたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、事業実施時期を延期するなどしたため、実施事業数は減少した。障害者支援施設等での利用拡大を図り、新たに5施設での利用があった。新しいニーズの開拓をしている。</p> <p>○文化団体・イベントマッチング事業 当初は県内各地のイベントに30団体をマッチング予定だったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により1イベント2団体のみでのマッチングとなった。参加した団体からは、「成果発表の貴重な場となった」、イベント側からは、「イベントの内容が広がってよかった」との声が寄せられている。</p> <p>○協賛事業 協賛申請の増加に向け、より広く周知する必要がある。</p>	文資
「古典の日」関連の取組	0	<p>11月1日の「古典の日」の記念事業として、さいたま文学館が「講談で楽しむ義士伝―赤穂事件の序章 松の大廊下」を開催。 ・開催日：令和2年10月24日 ・参加者数：200人 ・講師：外山澄輝氏（いきいき埼玉市民講師）</p>	<p>古典の日記念事業の講演会は、応募多数かつ感染防止のため、会場をさいたま文学館文学ホールから桶川市民ホールに移して開催した。 本事業を通じて県民の古典に対する興味や関心を高めることができた。</p>	文資

<p>子供たちの文化芸術活動に触れる機会の充実</p>	<p>0</p>	<p>文化庁との共催により、文化芸術団体を学校に派遣し、演劇等の巡回公演を実施する。また、芸術家による鑑賞指導や実技指導を行うワークショップなどを通して、子供たちが芸術を身近なものと感じることができる機会の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術家の派遣事業 実施校数 31校</li> <li>・巡回公演事業 実施校数 57校</li> </ul>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止にした学校も複数あったが、実施した学校からは、芸術家と身近に接する貴重な体験を図ることができるなど、充実した取組であったという声が多かった。</p>	<p>文資</p>
<p>障害者の生涯を通じた多様な学習活動推進事業 → 施策13参照</p>				<p>特教</p>
<p>埼玉県小・中学校等音楽会の開催</p>	<p>149</p>	<p>音楽の表現及び鑑賞の活動を通して、情操豊かな児童生徒の育成と教職員の指導力の向上を図るため、県内10地区で実施する地区大会のうち、特に優れた学校による発表について、中央大会として開催する。</p>	<p>令和2年度は地区大会及び中央大会について令和2年4月の時点で中止の決定をした。</p>	<p>義指</p>
<p>美術館・博物館における教育・普及事業</p>	<p>0</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○歴史と民俗の博物館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・「ものづくり工房」通常体験メニュー 藍染めハンカチなど：8種類 開館日実施 参加者数：2,204人</li> <li>・「ものづくり工房」特別体験イベント 江戸組紐キーホルダーと眼鏡紐作りなど：4種類 6回 参加者数：41人</li> <li>・歴史民俗講座：3回 参加者数：119人</li> </ul> </li> <li>○さきたま史跡の博物館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・さきたま講座の開催：年4回 参加者数：290人</li> </ul> </li> <li>○嵐山史跡の博物館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史講座1の開催：中止</li> <li>・歴史講座2の開催：中止</li> </ul> </li> <li>○自然の博物館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然史講座の開催：年4回 参加者数：79人</li> <li>・観察会の開催：年2回 参加者数：19人</li> </ul> </li> <li>○川の博物館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・かわはく研究室の開催：年10回 参加者数：520人</li> </ul> </li> <li>○近代美術館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育普及プログラム「MOMASのとびら」の実施：年4回 参加者数：119人</li> </ul> </li> <li>○文書館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・古文書講座：年5回 参加者数：141人</li> <li>・子供体験事業 キット販売：240セット（はんこ、巻物、立体地図、和本） 子供地図教室：年1回 参加者数：17人</li> <li>・学校との連携（出前授業）：年2校 参加者数：115人</li> </ul> </li> <li>○さいたま文学館 <ul style="list-style-type: none"> <li>・古典文学講読講座の開催：年3回 参加者数：306人</li> </ul> </li> </ul>	<p>各館では、多彩な体験プログラムを実施している。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加人数の制限や一部事業の開催中止等があったものの、校外学習等で来館した児童生徒には、体験事業や展示見学等を行い、文化芸術に触れる機会の充実を図った。また、県民の郷土埼玉の歴史や伝統文化に対する理解を深める各種講座を提供することができた。</p>	<p>文資</p>

<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●埼玉県芸術文化祭への参加者数（人） [出典：埼玉県による実績調査]</p> <table border="1" data-bbox="486 555 1236 656"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>1,468,000</td> <td>1,172,164</td> <td>1,114,789</td> <td>805,886</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>1,478,500</td> <td>1,484,000</td> <td>1,489,500</td> <td>1,495,000</td> <td>1,500,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【原因分析】 新型コロナウイルス感染症の影響により、「埼玉県美術展覧会」を始めとする多くのイベントが延期・中止又は縮小開催となり、参加者数が減少したため、年度目標を達成することができなかった。</p>		H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	参加者数	1,468,000	1,172,164	1,114,789	805,886				年度目標値			1,478,500	1,484,000	1,489,500	1,495,000	1,500,000	<p>文資</p>
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																			
参加者数	1,468,000	1,172,164	1,114,789	805,886																						
年度目標値			1,478,500	1,484,000	1,489,500	1,495,000	1,500,000																			
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>文化芸術活動は、特に児童生徒がプロの作品や演奏に接する機会を得られる点で、子供たちの成長に大きな意味をもたらすことにつながり意義が大きいと思う。地域の文化祭や美術館等での普及事業などでは参加者の年代等を分析し、事業が訴求できていない層や地域への働き掛けを工夫して、数値目標である参加者数の増加に向けた対策を取っていただきたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、県内の美術館・博物館においては、校外学習等を通して児童生徒の体験学習支援を着実に実施しており、出前授業などのアウトリーチ活動も行われている。今後、社会教育施設と学校教育との連携をより一層推進してほしい。</p>																									
<p>今後の取組</p>	<p>引き続き各特別支援学校において、芸術家等を招き、生徒に直接実演・講演等を行うことにより、障害のある子供たちの文化芸術活動を支援していく。</p> <p>令和3年度の小・中学校等音楽会の開催については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。今後の開催については、共催者である埼玉県音楽教育連盟と連携を図りながら、安全な運営について検討していく。</p> <p>県民が身近に文化芸術に親しみ、交流し、創造する場を作るため、埼玉県芸術文化祭において多様な芸術活動を実施・支援するとともに、広報等により参加者の拡大を図る。</p> <p>県展の延期を受けて令和3年度に開催される「Web美術展 in Saitama」は、入選等の審査を実施しない美術展として参加者の間口を広げるとともに、県展にはなかった「グラフィック部門」を設け、若年層の参加を促す。</p> <p>各県立博物館・美術館等では、館内での体験学習に留らず、体験学習キットの販売やWEB上での動画配信など、より多くの方が参加可能な教育・普及事業を実施していく。</p>	<p>特教</p> <p>義指</p> <p>文資</p>																								

目標	IX	文化芸術の振興		
施策	28	伝統文化の保存と持続的な活用		
主な取組	○ 伝統文化の保存・活用・価値の再評価			
	○ 伝統文化の魅力発信と学ぶ機会の充実			
	○ 市町村の取組への支援			
担当課	文化資源課			
主な事業				
事業名	予算額 (千円)	事業の概要	事業の自己評価	担当課
文化遺産調査活用事業	5,911	<p>埼玉の歴史文化を再発見し、埼玉の魅力を世界に発信するため、潜在的な歴史文化遺産を新たに掘り起こすための学術調査を実施するほか、文化財の保存活用に関する計画（文化財保存活用地域計画）を作成する市町村に対して支援を行う。また、「博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業」として、新しい視点での博学連携プログラムを周知する。</p> <p>○無形民俗文化財調査研究として、映像作品「番匠免の般若経祭り」作成、「玉敷神社のお獅子さま」アンケート調査実施・集計（令和3年3月）</p> <p>○自然遺産調査研究として、入間川本流域を中心とした「入間川流域自然遺産」の植物分野における現地調査（狭山市・入間市）、動物分野の定点調査、地質分野の現地調査を実施</p> <p>○歴史遺産調査研究として、江戸時代後期に編さんされた「新編武蔵風土記稿」（大里・秩父地域）の現地調査を実施</p> <p>○地域の文化財保存活用のマスタープラン策定支援事業については、全市町村を対象とした文化財保存活用地域計画に関する研修会を開催（年3回）</p> <p>○研究委嘱の成果である博学連携による学習プログラムの普及のために、「博学連携スキルアップ研修会」を実施</p>	<p>文化遺産調査活用事業については、潜在的な歴史文化遺産を新たに掘り起こすための学術調査について、各分野の調査テーマに基づき、計画的に調査を行い、新たな資料の収集と公表ができた。</p> <p>無形民俗文化財調査では映像作品の作成、自然遺産調査では令和元年度から開始した入間川流域自然遺産についての本調査、歴史遺産調査では「新編武蔵風土記稿」に係る文化財に関する文献調査及び現地調査を実施した。</p> <p>また、研修会を通して文化財保存活用地域計画作成のノウハウを市町村に伝えることができた。</p> <p>子供パワーアップ事業については、県内博物館・美術館の職員に博学連携スキルアップ研修会を開催し、博学連携の技能の向上を図ることができた。</p> <p>また、研究指定校での研究成果や県立博物館・美術館等での取組を博学連携リーフレットにまとめ、博学連携による質の高い教育活動を県内小・中学校に普及した。</p>	文資
文化財保護事業補助	140,573	<p>文化財の所有者・管理者等が行う文化財の保存事業に対し補助金を交付し、指定文化財の適切な管理を図る。</p> <p>○国指定文化財、県指定文化財の保存事業に対する補助金の交付（国指定11件、県指定39件）</p> <p>○埋蔵文化財包蔵地内で行われる建設工事に先立ち、市町村が実施する試し掘り等の調査に対する補助金の交付（41件）</p> <p>○県指定無形民俗文化財の後継者養成を目的とした事業に対する補助金の交付（6件）</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により完遂できなかった事業が複数あったが、申請のあった事業や緊急対応の大半については円滑に実施することができ、文化財の保存措置を適切に行うことができた。</p>	文資
文化財管理事業	3,502	<p>国指定文化財の維持管理経費の一部補助を行うとともに、国指定史跡「比企城館跡群」のうち「菅谷館跡」に関する保存活用計画策定の準備を行う。さらに、14県での共同研究を実施し、文化財の基礎情報について充実を図る。</p> <p>○国指定文化財管理事業補助（16件）</p> <p>○「菅谷館跡」保存活用計画策定準備</p> <p>○「古代文化」に関する全国14県共同研究の実施</p>	<p>国指定文化財の防災設備保守点検に係る経費に対して補助を行うことで、文化財の適切な管理に成果があった。</p> <p>「菅谷館跡」保存活用計画の策定へ向けて、基礎的な資料の収集・確認作業を進めた。</p>	文資

<p>史跡埼玉古墳群保存活用事業</p>	<p>24, 845</p>	<p>本県を代表する文化遺産であり、学術上の価値が特に高く我が国文化の象徴である特別史跡に指定されている埼玉古墳群は、大型古墳9基を中心とする東日本屈指の古墳群である。この埼玉古墳群の恒久的な保存を図るとともに、その価値を顕在化させ、広く県民に公開するために必要な整備を行う。 ○奥の山古墳整備工事（令和2年6月～令和2年10月）</p>	<p>奥の山古墳の整備工事（周堀の遺構表示）を実施した（令和元年度及び2年度の2か年で実施）。</p>	<p>文資</p>
<p>埋蔵文化財保存活用事業</p>	<p>52, 217</p>	<p>県が収蔵する出土文化財の整理・保存を推進し、埋蔵文化財保護思想の啓発を図る。 ○ぜい弱な出土品である金属製品、木製品の保存処理を実施（令和2年4月～令和3年3月） ○遺跡見学会を実施（令和2年4月～令和3年3月） ○「古代からの教室へのメッセージ事業」を40校で実施（令和2年4月～令和3年3月）</p>	<p>出土品の適切な保存処理を行うとともに、遺跡見学会の実施や学習用キットの貸出しを行うなど、学校教育や社会教育の場で埋蔵文化財保護思想の啓発を図るとともに、生涯学習の推進に資することができた。</p>	<p>文資</p>
<p>文化財収蔵施設収蔵庫増設事業費</p>	<p>172, 770</p>	<p>出土文化財の収蔵スペースを増設し、適切な保存管理や活用を図る。 ○第2収蔵庫改修工事に伴う収蔵資料の移動（令和2年7月、令和3年3月） ○第2収蔵庫改修工事（令和2年9月～令和3年3月） ○出土品取扱基準の見直しに係る有識者会議開催</p>	<p>文化財収蔵施設第2収蔵庫に温湿度管理室を新設し、金属製品や木製品など、ぜい弱な出土品を安定的に保存することができるようになった。</p>	<p>文資</p>
<p>県立博物館・美術館等における活動の充実</p>	<p>0</p>	<p>県立博物館・美術館等における主な企画展・特別展 ○歴史と民俗の博物館 ・特別展「武蔵国の旗本」（R2/3/20～R2/5/10） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・特集展示「特別展『武蔵国の旗本』を振り返る」「太平記絵巻の修理を終えて」（R2/7/18～R2/9/6） 観覧者数：3, 385人 ・企画展「新収集品展2018・2019」（R2/10/10～R2/11/23） 観覧者数：3, 114人 ・特別展「銘仙」（R3/1/2～R3/2/14） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止 ・NHK大河ドラマ特別展「青天を衝け～渋沢栄一のまなざし～」（R3/3/23～R3/5/16） 観覧者数：9, 965人 ○さきたま史跡の博物館 ・企画展「盾持人埴輪の世界」（R2/9/12～R2/11/23） 観覧者数：18, 332人 ・最新出土品展「地中からのメッセージ」（R2/12/12～R3/2/7 ※R2/12/24～臨時休館） 観覧者数：1, 417人 ○嵐山史跡の博物館 ・企画展「戦国の比企 境目の城」（R2/12/5～R3/2/14 ※R2/12/24～臨時休館） 観覧者数：771人 ○自然の博物館 ・企画展「地図と模型で見る埼玉の大地」（R2/2/11～R2/8/30 ※R2/2/29～R2/5/31臨時休館） 観覧者数：27, 131人 ・特別展「埼玉記念物100年—埼玉の天然記念物ってどう思いますか？—」（R2/9/26～R3/2/28 ※R2/12/24～臨時休館） 関連展示：「#埼玉巨樹番付」（R2/12/1～R3/2/28 ※R2/12/24～臨時休館） 観覧者数：15, 806人 ・企画展「新収集品展」（R3/3/13～R3/6/20 ※～R3/3/21臨時休館） 観覧者数：18, 167人 ○川の博物館 ・企画展「埼玉の森と林業」（R2/3/7～R2/6/21 ※～R2/5/24臨時休館） 観覧者数：2, 768人</p>	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のための臨時休館により、博物館等への来館を中止する期間が多かった。 そこで、「おうちでミュージアム」と題し、SNSを使って、臨時休館した博物館等の展示や収蔵品などの動画や写真を紹介する取組を行った。例えば、歴史と民俗の博物館では、開催中止となった企画展「武蔵国の旗本」を紹介する動画を公開した。その結果、「おうちでミュージアム」には、6万件を超えるアクセスがあった（令和3年4月時点）。博物館等への来館を中止する中でも、多くの方に博物館等の活動を知っていただくことができた。</p>	<p>文資</p>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別展「楽しい美味しい江戸の水辺」(R2/7/11～R2/9/6) 観覧者数：13,511人</li> <li>・企画展「タカ・ハヤブサ・フクロウ ～荒川流域の猛禽類～」(R2/9/26～R2/11/23) 観覧者数：10,936人</li> <li>・企画展「海苔・川苔・のりのり！」(R3/1/23～R3/4/18 ※～R3/3/21臨時休館) 観覧者数：1,955人</li> </ul> <p>○近代美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「New Photographic Objects 写真と映像の物質性」(R2/6/2～R2/9/6) 観覧者数：7,488人</li> <li>・「MEDE SUWARUー今日みられる椅子」(R2/9/26～R2/11/3) 観覧者数：5,560人</li> <li>・「上田 薫」(R2/11/14～R3/1/11 ※R2/12/24～臨時休館) 観覧者数：6,185人</li> <li>・「コレクション 4つの水紋」(R3/3/23～R3/5/16) 観覧者数：4,811人</li> </ul>		
オリパラおもてなしミュージアム	19,489	<p>東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会やラグビーワールドカップ2019を契機として、国内外からの来訪者に対する県立美術館・博物館の「おもてなし環境」を整備し、埼玉の魅力を世界に発信するとともに、郷土や我が国の歴史・文化を誇りに思う心を醸成する。</p> <p>○歴史と民俗の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展「太平記絵巻」(令和3年度に延期)開催準備 公開に必要な展示台や図録・ブックレット等を製作</li> </ul> <p>○さきたま史跡の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展「盾持人埴輪の世界」の開催</li> </ul> <p>○嵐山史跡の博物館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展「実相 忍びの者」(令和3年度に延期)開催準備 企画展開催に先立ち、企画展図録(日本語版・英語版)を制作</li> </ul> <p>○近代美術館</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ・作品解説の翻訳</li> </ul> <p>○県立博物館・美術館施設8館合同</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多言語ホームページ更新</li> </ul> <p>※東京オリンピック・パラリンピックの開催延期に伴い、多言語パンフレットの作成・配布は中止</p>	<p>各博物館・美術館等では、オリンピック・パラリンピックの機運醸成に向けて、それぞれの館の特性や収蔵コレクションを生かした様々な事業を展開することができた。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、オリンピック・パラリンピックに合わせて開催予定だった企画展の一部が延期となったが、令和3年度の開催に向け、準備を行った。</p>	文資
渋沢栄一・大河ドラマ関連プロジェクト	4,971	<p>大河ドラマ「青天を衝け」の主人公となる渋沢栄一の生涯や功績等を紹介する展覧会を歴史と民俗の博物館で開催し、多くの方に足を運んでいただけるよう広報を行う。</p>	<p>特別展では、渋沢が中心となり、日米友好のために行われた人形交流に焦点を当て、県内に残る「青い目の人形」12体を展示するなど、経済人としてだけでなく、様々な分野で活躍した渋沢の姿を多面的に紹介することができた。</p>	文資
文化資源を活用した地域活性化の推進	0	<p>令和元年度に特別史跡に指定された埼玉古墳群を通じて、関係市町村や地元企業等との連携により、地域を盛り上げる事業を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県内古墳ツアーやグッズ開発、アート・プロジェクトの実施等</li> </ul>	<p>さきたま史跡の博物館を中核とし、行田市や行田商工会議所、観光部局等の参画を得て実行委員会を組織し、古墳に関する各種プログラムを実施した。これにより、古墳という文化財への興味関心を高めるとともに、埼玉古墳群への新規客層を取り込むことができた。</p>	文資

<p>文化遺産調査活用事業のうち 地域の文化財保存活用に係る市町村の取組への支援</p>	198	<p>文化財保存活用地域計画の作成に着手した市町村に対して、作成協議会のオブザーバー、委員として作成支援を実施するとともに、作成を検討している市町村に対する助言を実施する。</p>	<p>秩父市・白岡市の協議会へ出席し、適切に作成支援を行った。</p>	文資																								
<p>文化遺産調査活用事業のうち 博物館・美術館等を活用した子供パワーアップ事業</p>	1,209	<p>平成30年度・令和元年度の研究委嘱の成果である博学連携による学習プログラムの普及により、学校による博物館の利用を促進する。 ○研究指定校8校と博物館・美術館等の連携による実践事例を県内に広め、「博物館活用ガイドブック」を多くの学校で役立ててもらえるよう「博学連携スキルアップ研修会」を開催する。 ・回数：年1回 ・参加者数：32人 ・会場：行田市郷土博物館 ○研究指定校での研究成果や県立博物館・美術館等での取組を基に「博物館活用リーフレット」を作成し、県内小・中学校に配布する。(令和3年3月) ○令和元年度まで研究を委嘱していた研究指定校8校のその後の取組状況を把握し、持続可能で大きな効果が期待できる博学連携の方法を示す。 ○新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組の下での博学連携による教育活動について研究し、方策を示す。</p>	<p>博学連携スキルアップ研修会では、市町の文化財行政主管課、生涯学習・社会教育主管課、指導事務主管課、県内博物館・美術館等の職員を対象に、博学連携の技能の向上を図ることができた。特に、博物館展示の学校利用促進に焦点を当て、そのために必要なスキルを伝達した。 博物館活用のリーフレットの作成・配付を進め、博学連携を進めるポイントや県立博物館・美術館等の学校教育支援の取組について、各教育事務所、市町村の指導事務主管課を通して普及に努めた。 川越市立川越小や行田市立忍中と行田市郷土博物館の研究後の取組をリーフレットに掲載した。 ホームページやZ o o mを活用した博学連携の取組について研究を深めている。</p>	文資																								
<p>施策指標の達成状況・原因分析</p>	<p>●県立博物館等の年間利用者数（人） [出典：埼玉県による実績調査]</p> <table border="1" data-bbox="507 1301 1198 1413"> <thead> <tr> <th></th> <th>H29</th> <th>H30</th> <th>R1</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>利用者数</td> <td>915,000</td> <td>938,719</td> <td>832,423</td> <td>302,544</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>年度目標値</td> <td></td> <td></td> <td>938,000</td> <td>960,000</td> <td>970,000</td> <td>985,000</td> <td>1,000,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>【原因分析】 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、令和2年2月29日から全館を臨時休館とした。(令和2年5月19日に文書館再開、5月26日に歴史と民俗の博物館、川の博物館再開、6月2日にさきたま史跡の博物館、嵐山史跡の博物館、自然の博物館、近代美術館、さいたま文学館再開。)その後、令和2年12月24日～令和3年3月21日に再び全館を臨時休館としたことにより、年度目標値を達成することができなかった。</p>				H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	利用者数	915,000	938,719	832,423	302,544				年度目標値			938,000	960,000	970,000	985,000	1,000,000	文資
	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5																					
利用者数	915,000	938,719	832,423	302,544																								
年度目標値			938,000	960,000	970,000	985,000	1,000,000																					
<p>学識経験者の意見・提言</p>	<p>文化遺産・文化財の保存管理、活用に内容の充実した事業が継続的に実施されていて、高く評価したい。また、博物館でコロナ禍の臨時休館に対応すべく実施された「おうちでミュージアム」企画は、アフターコロナにおいてもいわゆるデュアル開催につながる試みであり、大変良かった。このような活動も含め、県HPで事業の企画や成果を一層積極的に発信していただきたい。</p> <p>様々な制限がある中で、工夫をしながら事業や展覧会などを開催された様子がよく理解できる。臨時休館とした博物館等の展示等をSNSで紹介する「おうちでミュージアム」は大変良い取組である。迅速な対応もさることながら、職員自ら動画を制作することは、現場を知っているからこそできることも多くあり、その結果として6万件を超えるアクセスがあったことは、大きな成果である。</p>																											
<p>今後の取組</p>	<p>各県立博物館・美術館等では、資料の収集・保管・調査を行うとともに、充実した魅力ある展示などを実施していく。 SNSやYouTubeなどのWEBを活用した情報発信を積極的に行っていく。 貴重な文化財を適切に保存し、後世に伝えるため保存事業や防災対策に補助金を交付する。</p>			文資																								